高岡市立博物館に親しむ会

KA JI MARU

鍛冶丸

第16号

令和5年 3月

高峰譲吉博士　没後100年に想う

高岡市立博物館に親しむ会 広報部会長　般若 慎一郎

高峰譲吉博士肖像

郷土の偉人高峰譲吉は1854年に高岡市御馬出町に生まれ、1922年にアメリカで67才の生涯を閉じた。2022年は没後100年にあたり、博物館では特別展「没後100年　高峰譲吉記念展～高岡に生まれた世界的科学者・実業家であり、日米親善に尽くした“無冠の大使”」を開催し、展示説明会や講演会を行った。また商工会議所などが主催して「高峰譲吉博士没後100年記念フォーラム」も開催されたし、金沢市の金沢ふるさと偉人館においても高峰譲吉没後100年展が開催された。

高峰譲吉はタカジアスターゼやアドレナリンを発明・発見した世界的な化学者ですが、同時に現代のベンチャーのような起業家であり、また日米親善に尽くした民間外交家でもあった。彼の人生を知れば知るほど、その活躍ぶりに感動してしまいます。

1884年、米国ニューオーリンズ万博に事務官として派遣され1年間滞在した時に下宿先の長女キャロラインを見染め婚約したのですが、その時譲吉は30才、キャロラインは18才でした。おそらく国際結婚を想定した法律も整備されていなかっただろうと思われる時代に、12才年下のアメリカ人女性に恋をし結婚したことは、学問においても結婚観においても既存の常識にとらわれない自由な発想をしたパイオニアだったことを物語っていると思われます。

譲吉の没後、妻キャロラインはその後再婚したが、その相手がなんと24才年下の息子の友人だった。キャロラインもまた既存の常識にとらわれず自由な発想ができるパイオニアだったようです。

1905年、前年に開催されたセントルイス万博会場に建てられた寝殿造りの日本パビリオンを譲り受け、別邸としてニューヨーク州サリバン郡の高級別荘地メリーウォルドに移築した。それは松楓殿と名づけられ、日米の政財界や学界の人達と高峰の交流の拠点となった。その松楓殿の一部が高岡商工ビルに移設・展示されているが、高峰の没後100年を記念して展示場が拡張され展示品が増えた。

1909年、東京市長がワシントン市へ桜2,000本を贈るに際して高峰が資金援助し仲介したが、害虫が見つかり焼却処分になった。その後、再度桜を贈るに際し再び仲介の労を執った。その桜並木がポトマック河畔に日米親善のシンボルとなって今も春に咲き誇っているし、その里帰り桜が古城公園大手口の高山右近像の後方に植えられている。1912

年にはニューヨーク市マンハッタンで、ハドソン川沿いのリバーサイドパークに面して迎賓館のような豪邸を建てた。外観はルネッサンス風だが内装は本格的な和風とし、各界の有力者を招いて交流の拠点とした。そして隣接するリバーサイドパークに桜約3,000本を贈った。

高峰は発明を製品化し、事業成功で得た富を日米親善・民間外交に惜しみなく投じました。そのような彼の人生を概観すると、学問も事業も民間外交も「世の中のお役に立ちたい」という信念で貫かれていると思うのですが、いかがでしょうか？

（はんにゃ・しんいちろう）

高岡市内の義経伝説の伝え聞き
～「鎌倉殿の 13 人」に触発されて～

高岡市立博物館に親しむ会 広報部会員　土肥 慶一郎

令和４年（2022）のＮＨＫ大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の源義経は、俳優の菅田将暉さんが演じ、従来からの義経像とかなり違った一面を私たちに見せ、多くの衝撃も与えてくれた。

私の印象は、平家追討の戦法はゲリラ的で、当時の戦の暗黙のルールを無視して平然としている、美男子とはとても言えない小柄な戦場オタク男である。

これでは、極楽往生はできないだろうと誰もが心配し、越中人が心の中で慕っている悲劇の義経主従の奥州落ちはどのように大河ドラマとして描かれるのか、不安とともに期待をしていたが、残念なことに、京の都から奥州藤原氏への逃避行はカットされていた。

そこで、私が伝え聞いている高岡市内の義経伝説の一端を述べ、記憶の整理にお付き合い頂きたい。

先ず基本的な文献にあたると、「義経一行が北陸路をたどったかどうかは、まだ解明されていない。」（高岡市市制100年記念誌たかおか―歴史との出会い―：平成３年高岡市発行）とあるのにびっくりしながらも、地元伝承に従い、写真によって紀行文風にまとめた。

まず、義経岩は、JR西日本氷見線の義経岩踏切を渡ると有磯海側からその全貌が分かる。写真１～３は、遠景から近くまでを撮影した。洞穴は近年、コンクリートで補強してあり、崩れる心配はない。天候次第では海岸からは、海越しに3000m級の立山連峰を望むことができ、当時の義経主従の前途多難な旅の雨宿りの心境はどうだったのかと想像してみた。

1　義経岩と JR 氷見線

2　義経社と鳥居

3　義経岩の雨晴伝説

4　気多神社　拝殿

5　気多神社　社殿と弁慶伝説

6　如意の渡　―弁慶が義経を打つ

次は、伏木一宮地内の気多神社にある弁慶伝説である。写真４～５を撮影中、弁慶の拳の跡、足跡をこの目で確かめようとしたが、社殿の周囲は厳重な垣根で、侵入を拒まれた。なお、社殿は幾度もの兵火にあって焼失しており、現在のものは、永禄年間（1558～1570）に再建されたものとの記録が伝わっている。よって、義経主従の奥州落ち（1180年代の後半か）とは辻褄が合わないのがご愛敬である。弁慶が拳で社殿の柱を叩き、地団駄を踏んで頼朝に対して悲憤慷慨したと想像するのも、また感慨深いものがある。

最後は、ＪＲ西日本の伏木駅前観光駐車場に移設された「義経記　如意の渡」の義経と弁慶の銅像である。歌舞伎、映画やテレビなどでも演じられ、国民の誰もが涙を誘う名場面を表現した堂々たる銅像は、まさに高岡銅器の傑作のひとつである。（写真６）

元来、伏木駅裏と中伏木間の渡船があった頃、平成２年(1990)に小矢部川の伏木側岸壁付近に設置されたものである。私の長男（現在37歳）が、当時、幼稚園を代表し園児数名とともに銅像序幕の栄誉を担ったと、本人が、今でも幼いころの記憶を話すことがあるのは、義経伝説の功徳とも感じ、この地 伏木に生まれた幸せを親子ともども喜ぶ次第である。

十分な解説を尽くせなかったが、どうか、皆さんには、現地に足を運び、当時に思いを馳せて頂けたら誠に幸いと存じます。

（どい・けいいちろう）

お知らせ

本年もクリアファイルを作成しました！

図柄は明治20年（1887）の引札と「高岡中古之図と今」の二種。令和４年度（2022）登録の全会員に配布したほか、ミュージアムショップで販売しています。（一部200円）

歩く博物館へのお誘い

第35回歩く博物館　令和４年６月23日（木）

「山町筋と金屋町の『中間地帯』を探索する」に参加して

高岡市観光ボランティアガイド「保与の会」　筆谷　京子

４月に行われた第33回「二上射水神社の祭礼を鑑（み）る」に続き、参加させていただきました。樽谷雅好先生とご一緒に歩くとき、なぜか「♪ボ・ボ・ボクラハ ショウネン タンテイダン」のメロディが胸に浮かぶのは私だけでしょうか？

ルートは、＜出発＞木舟町バス停（大野屋側）～山町筋～通町～旅籠町（はたごまち）～川巴良（かわら）諏訪神社～中島町～金屋町～内免町～大町～下川原町＜解散＞

ポイントごとに樽谷先生が含蓄とウイットに富んだお話を聞かせてくださいましたが、特に興味深かったのは、これまであまり馴染みの無かった後半のエリアでした。

●金屋町のキューポラ近くに建つ市内で唯一の「石置き屋根」の家（写真左）は、「榑（くれ）葺き」と言う。水に強いクリの木を使うことが多い。夏は木が乾燥して反るので熱気がこもらず、冬は湿気と雪で暖気が逃げない。かつての住人によれば「他の人が思うより、住み心地がいい」。

●突然「皆さん、子どもの時分に戻った気分でついてきてください！」の号令。通りを逸れて家と家の間の狭い抜け道に突入。内免橋（昇開式可動橋）を経て道なき道を進み、大町へ。北陸で最初の民営紡績工場「高岡紡績」跡地（写真右）は、今も蔦に覆われた赤レンガの壁が残る。肝心の紡績業は振るわなかったが（後に「日清紡績」に身売り）、当時工場で発電していた電力が余り、別途「高岡紡績電灯」を設立。「高岡電灯」を経て、現在の「北陸電力」になった。

●最後に訪れたのは、下川原町※1。高岡開町の頃発祥したと言われる瞽女（ごぜ）町※2の跡地へ。瞽女は芸事で身を立て、実子には跡を継がせないしきたりだった。目開きの瞽女もおり、15軒が軒を連ねた。明治33年（1900）の高岡大火で殆どが廃業したが、唯一「延対寺」家が伝統を受け継ぎ、新たに桜馬場で開業。伊藤博文や渋沢栄一など、政財界人が訪れる名立たる高級料亭旅館になった。

樽谷先生と共に高岡の町を歩きまわる中で、ふと漏らされた「山町や金屋町ばかり有名になって、中間地帯がなおざりにされている」というひと言が、心に沁みました。平凡な町並や店仕舞いした商家、狭い辻角・・・ありふれた景色や門並に、往時の人々の暮らしや喜怒哀楽、町の移り変わりが息づいているように感じました。うだるような暑さの下、肩で息をし、流れる汗をぬぐいながら熱心に教えていただいた樽谷先生に、心から感謝を申し上げます。

（ふでたに・きょうこ）

樽谷雅好先生は、令和５年（2023）１月24日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。　　高岡市立博物館に親しむ会

※1 下川原町は現在の大町、川原町の一部
※2 瞽女町は現在の川原町の一部

呈茶席へのお誘い
「松聲庵」掛待合での一服

高岡市立博物館に親しむ会 ワークショップ部会長　小嵐　晴美

「野点」という言葉があります。野外で茶を点てることを言います。20代の初め頃に、茶の湯の先生が国泰寺の境内の一隅に野点の席を設けて下さいました。高い木々と竹林に囲まれた地面に莫座を敷き、その上で稽古仲間10人足らずが一刻お茶を楽しみました。私としては、その後この席に優る茶席に出会ったことがありません。お稽古の延長でしたから、純粋に一服を楽しむことができました。清々しい空気の中で頂いた一服が、折に触れて思い出されます。

数々の茶席でお茶を頂きました。家元の行事に参加してワシントン・ナショナルギャラリー、フランスの美術館・修道院でのお茶席も経験しました。お茶席は道具等何から何までこだわりの世界です。私はそのこだわりにとらわれて、なかなか純粋に一服のお茶そのものを味わうことができませんでした。一服を無心に味わうということは難しいことでした。

そして今、私にとって一番の一服は、松聲庵の腰掛待合で頂く一服です。座る度に、あの国泰寺境内で頂いた50年余り前の一服が蘇ってきます。かぶさってくる木々の梢、松聲庵の前の小さな庭の苔の緑、そして温かい一服、肩の力が抜けて何もかも忘れます。おいしいです。構えないで、お茶そのものを味わえる場があることを喜んでいます。

（こあらし・はるみ）

春の呈茶席にて（筆者は左）

茶室「松聲庵」は、昭和46年（1971）に裏千家淡交会高岡支部から、高岡市に寄贈されました。一日4,400円（税込）で貸出しもされています。

版画講座へのお誘い
令和４年11月11日（金）18日（金）

木版画で年賀状を作ろう

版画講座講師・高岡市立博物館に親しむ会 広報部会員　水上　悦子

高岡市立博物館に親しむ会の版画講座も３年目となりました。今回は、会員４名 一般の方２名計６名のご参加を頂きありがとうございました。

受講された皆さんの作品

下絵を版木に写して、彫刻刀で彫って、刷毛やバレンを使って刷って仕上げるまでの２回講座。いかがだったでしょうか。皆さんの感想からいくつかご紹介します。

♥はじめての参加で、彫刻刀で木板を彫る音がここちよく、楽しい講座に参加させていただいてうれしかったです。

♥版画を好きな人たちと作業ができて幸せでした。家族に伝授したいと思います。

♥初めて版画年賀状にチャレンジで１回目からわくわくでした。彫りは細かい所は難しかったのですが、集中できる時間でした。刷りは１回１回色の出方が違うこと、筆（刷毛）使いがなかなかできず思うようになりません。これが上手になればなあ…。

♥毎年版画を彫っていますが、今まで知らなかったことがよくわかりました。色のつけ方も自己流でした。元気な間、毎年版画を彫り続けます。

彫りの楽しさと刷りの難しさも感じていただけたようです。木版らしい刷り味が分かるとやめられなくなりますね。１枚１枚手刷りの木版画にはその人の苦労と思いが籠もっていてどれも味わいがあっていいのです。「今年は年賀状で版画に挑戦という夢を一つ叶えさせていただきます。」「来年も是非参加したい。」との言葉に新しい年への元気がわいてきました。

（みずかみ・えつこ）

古文書ボランティアへのお誘い

古文書教室万歳！の話

高岡市立博物館に親しむ会 広報部会員　山井　正樹

我が家に伝わる掛軸や色紙の文句がずっと読めず、亡くなった親に尋ねるも判らなくて、何十年の謎だった。これが読めたらいいけど、読めそうにないなあと思っていました、それが・・・。

博物館主催の「初めての古文書教室」のお陰でついに解読、暗雲が切れて青空が広がるように晴れ渡った。まさに感無量、書画を理解する楽しみが出来たのだ。

古文書教室

古文書ボランティア

講座で初めて接する、みみずののたくったような線、アラブ語か何かのようにしか見えない崩し字、下手くそな、そして間違った（しかし常用されてきた）崩し字、「御座候」「有之候得共」こんな一筋縄でいかぬ崩し字がちゃんと読めるようになった嬉しさ、喜びが湧いて来る奥深い講座が、博物館で開かれているのです。ぜひ参加なされませんか、鉛筆と消しゴムに少しの資料代で事足りますから・・・。

で、前述の言葉は何と読むのか・・・、「ござそうろう」「これありそうらえども」と読み下します。

教室を終えた方の中には、現在活動中の「高岡古文書ボランティア」に参加して、実物の古文書に触れながら、郷土の貴重な古文書の調査･整理に当たっておられる方があることをつけ加えておきます。

（やまい・まさき）

古文書ボランティアへのお誘い

「高岡古文書ボランティア」の現場から

高岡市立博物館に親しむ会 広報部会員　松原 吉孝

７月16日（土）にボランティア活動に参加しました。私自身は久しぶりでやや緊張していましたが、他のみなさんは楽しそうに古い資料を見て整理をしていました。13名の参加でしたが、「鍛冶丸」でそのようすを報告したいと思い、参加のみなさんに声をかけ質問をしてみました。少し紹介してみます。

大きく分けて３つのことを聞いてみました。

① どのような思いで参加しているのでしょうか？

・古文書の通信教育を受けたことがあり、何か生かせないかとの思いで
・家にいるより参加した方がボケ防止になる
・古い時代の高岡のことを知りたいので
・古文書の読めない字を読めるようになりたい
・生の古文書に触れたいので
・自分自身にとって何か勉強になると思ったので

② 参加してどのように思いますか？

・昔の字が分かることが楽しい
・古文書を通して事実、真実が分かることが楽しい
・ことばの豊富さに驚いている
・古文書のことば、言い表し方を知り小さな感動がある
・家にいるより他の人と話をしながらこの活動をしている方が楽しい
・生の古文書に触れ、貴重な体験をしているように感じ、喜びを感じる

③ 今後のこの活動について何か思うことがありますか？

・最近の資料は明治～昭和初期のものが多いが、江戸時代のものも見てみたい
・資料の数も多く人手がかかると思うので、もっと参加の輪が広がればうれしい

全体を通して「楽しい」「うれしい」「喜び」という言葉が多く聞かれました。中でも一人の女性が言われた「楽しくなければここに来ないですよ！」という言葉が強く心に残りました。

一緒に活動をしていた職員の方々からもお話を聞くことができ、一言コメントをいただきました。

・部会員の皆様と机を並べて調査することで、職員のスキルアップの場にもなっていると感じています。今後ともよろしくお願い申し上げます。(北野さん)

・日々博物館には古文書をはじめ様々な資料の寄贈が多くあります。毎月１回の古文書ボランティア活動ではありますが、毎回多くの方にご参加いただいており大変助かっております。ありがとうございます。
今後とも引き続き当部会活動にご参加のほどよろしくお願いいたします。(宇川さん)

・皆様いつも古文書ボランティアへのご参加ありがとうございます。楽しみながら歴史の一端に触れることのできる会に一人でも多くのご参加をお待ちしております。(仁ヶ竹さん)

付記

平成４年(2022)、勝興寺（高岡市伏木古国府）の「本堂、大広間及び式台」が国宝に指定され、来場者も増えています。同寺にかかる古文書の研究も進められ、博物館の今年の新資料展（11/26～1/15）にも勝興寺関連文書が展示されました。

（まつばら・よしたか）

令和4年度　高岡市立博物館に親しむ会　事業報告

総会・講演会

講演「入門・博物館学」　講師：山本成子（高岡市立博物館　総括主査）　4/21(木)14:00～15:30

歩く博物館　講師：樽谷雅好さん(研修部会長)

第33回「二上射水神社の祭礼を鑑る」　4/23(土)13:30～15:30
第34回「小杉町を少し歩いて、歴史と文化を知る」　5/26(木) 9:30～12:40
第35回「山町筋と金屋町の『中間地帯』を探索する」　6/23(木)10:00～12:00
第36回「松任を、駅前で見巡る」　10/20(木)10:00～15:50

呈茶席　講師：小嵐晴美さん（ワークショップ部会長）ほか

4/23(土)、5/14(土)、21(土)、28(土)、9/10(土)、17(土)、10/1(土)、15(土)　いずれも11:00～15:00

版画講座 ー木版画で年賀状を作ろうー　講師：水上悦子さん(理事)

11/11(金)、18(金)13:30～15:00

高岡古文書ボランティア（古文書の調査・整理）

4/16(土)、5/20(金)、6/18(土)、7/16(土)、8/20(土)、9/16(金)、10/14(金)、11/19(土)、12/17(土)、1/21(土)、2/18(土)、3/18(土)(予定)　いずれも14:00～15:30

令和5年度　会員募集のご案内

あなたも会員となって、郷土への理解を深め、市民に親しまれる新しい博物館づくりに参加してみませんか。

親しむ会では、各種部会のメンバーを募集しています。

1. **研修部会**　事業企画、歩く博物館等サポート
2. **広報部会**　会報「鍛冶丸」の作成
3. **ワークショップ部会**　呈茶席運営・サポート
4. **高岡古文書ボランティア部会**　古文書の整理等

■主な活動
- 博物館の諸活動の協力、支援
- 高岡地域の歴史と文化に親しみ、互いに親睦を図る活動
- ミュージアムショップの運営　ほか

■年会費
- 一般会員　**1口 1,000円**　・賛助会員　**1口 5,000円**　＊お一人さま何口でも可

■会員の特典
- 企画展、特別展、講演会などのご案内
- 歩く博物館、走る博物館行事への参加、高岡古文書ボランティアでの活動、呈茶席などのご案内
- 会報「鍛冶丸」の送付・郷土学習講座等の受講料割引
- 図録の進呈（賛助会員のみ）

■申込方法

○入会申込書に必要事項を記入のうえ、会費を添えて「高岡市立博物館に親しむ会」事務局へお越しください。
入会申込書は「高岡市立博物館に親しむ会」のホームページに掲載しております。

○郵便振込みをご利用の場合は、振込用紙『払込取扱票』に以下の項目をご記入の上、郵便局にてお振込みください。
なお、振込手数料は各自でご負担をお願いいたします。※電信振替については、ホームページをご覧ください。

・口座記号：00760－8　・口座番号：100749　・加入者名：高岡市立博物館に親しむ会
・金額：年会費の金額　・ご依頼人：郵便番号、住所、氏名（ふりがな）、電話番号、性別、年齢

広報部会長退任ごあいさつ

このところ年を重ねると共に体力激減を自覚し、令和４年度(2022)末をもって交代すべきだと考えていました。部会員の中では若手の土肥慶一郎さんに後任をお願いしたところ、引き受けていただけてほっとしているところです。初代部会長の水上さんから引き継いだのですが、振り返ると平成27年(2015)からいつの間にか８年間も部会長を務めさせていただきました。その間に頂いた皆様のご支援とご愛読に感謝します。有難うございました。

般若　慎一郎

高岡市立博物館に親しむ会　会報「鍛冶丸」第16号
■発行日　令和５年(2023) ３月15日
■事務局　〒933-0044　高岡市古城１-５　高岡市立博物館内
TEL 0766-20-1572　FAX 0766-20-1570
URL https://www.e-tmm.info/　E-mail info@e-tmm.info